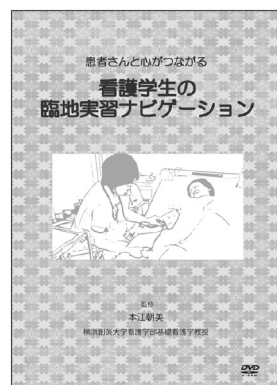


『患者さんと心がつながる 看護学生の臨地実習ナビゲーション』 看護学独自の「気づかい」の 力を学ばせるのに最適の 映像教材

監修：本江朝美，協力：横浜創英大学／定価：各巻 30,000 円＋税
発行：株式会社アローウィン／TEL：03-3361-6789



実習のなかで出会った学生たちのことを思い出しながら DVD を鑑賞した。特に初めての実習では、極度の緊張と学生自身の不安定な自己像があらぬ方向へと向かい、不自然なふるまいの学生に出会うことが少なくない。目の覚めるような鮮やかな赤い唇で実習場にやってきた学生 A さん。そしてお立ち台の上の野球選手さながら堂々と報告を行った男子学生 B さん……。DVD のなかで本江先生が「さあ力を抜いてみましょう……。あなたは、あなたのままでいいのです」とやさしく語りかける場面があったが、その言葉がフワリと着地するように私の心に重なった。

DVD は前半と後半に分かれる。前半は学生が緊張を和らげ、患者さんに関心を向けて「気づかい」を示すための方法である。患者さんの血圧測定を行う場面の映像が流れ、そこでの「気づかい」の違いを考える。二人一組で相手の手をつまむ、掴む、握る、支える、両手で包む体験をさせて、触れられるときの「気づかい」を感じとる。さらに丹田を意識した正しい姿勢、瞑想、腹式呼吸を通じて、自己を調整する方法を体得する。

DVD の後半は、実習の一日の流れの紹介である。起床後の健康チェックから、実習場での挨拶、行動計画の発表、ケアの実施、報告、カンファレンス、そして帰宅後の振り返りまでの間に、学生のとるべき行動やタイミングが映像で示される。

特に良いと思ったのは、前半部分では患者さんに接するときにはなるべく正対すること（相手に向かって真正面に向く）の大切さを説明している点である。映像でも正対しているときとそうでないときは、明らかに「気づかい」において印象が異なる。これは教師と学生、親と子の間でも言えるので気をつけたい。後半の実習の一日の流れの説明も、実習が初めての学生や新任の教員にとってありがたいと思う。

そもそも「気づかい」は看護実践そのものを成立させる基本概念であるが、それを具体的な行動で示すのは容易ではない。この DVD は看護における「気づかい」の力、重要性を真っ向から取り上げつつも、その受肉した姿を余すことなく描写し、しかも体験、知覚、思考を通じて学生に学ばせようとする。明らかに看護学独自の概念に基づく内容と技巧の展開であり、比べるのは失礼ながら単なる接客マナーとは大きく違った出来となっている。

ケアは受ける側の理解と協力があってこそ成立する。ケアを提供できてよかった、ケアを受けられてよかった、と互いに感じ合える体験こそが、学生にとって最良の学びだと思う。この DVD はその助けとなると考えるので、ぜひ大勢の方にご覧いただきたい。